

エゾシカのバッグを作ろう

NPO 法人コミュニティシンクタンクあうるず 菊池貞雄

日本の自然環境の中でも北海道の自然環境は比較的良好に保たれてきましたが、それでも私達人間との関わりにより少しずつ変化し始めております。降雨、天候などは私達人類が直接制御することのできない自然現象と言えます。しかし、近年になってこうした自然現象を根底から変化させる地球温暖化が、環境破壊の最大の原因としてクローズアップされております。地球温暖化現象は私達の日常生活に端を発しているものであるだけに、これを制御することは人類共通の責務であり、今こそ環境保全のために立ち上がらなければなりません。

1. 自然林再生とエゾシカ

開拓時代は食糧生産のために広大な森林を伐採して農地を開拓し、木材生産のために自然林を人工林へと転換してきました。しかし、国内で消費される木材の多くを輸入材に頼る今日、経済活動の資源として顧みられることがなくなった広大な植林地は手入れの行き届かない粗放林と化し、国土防災上からもその改善が求められている現状にあります。かつて木材の切り出し場だったところも自然復元が進まない状況にある処が多く、この問題に立ち向かうため、例えば「十勝三股森づくり 21」は東大雪山麓の木材切り出し場跡地の自然復元活動を行っています。ここでは、増加したエゾシカによる森林食害も大きな問題になっており、食害阻止のために高さ 2m 程度の防鹿柵を巡らして、植林地へのエゾシカ侵入を防止する対策を講じています。

野生生物であるエゾシカが、これまでの人間の行為によって餌場を失い、それが食害という形で自然再生を阻む原因となっていること、そして今また、人間の手で自然環境を管理しなければならない現実についても知ってもらいたいと思います。

2.地域ブランド

北海道は「北海道」自体がブランドです。しかし、「素材は一流、技術は二流、サービス三流」などと揶揄されるほどに、自立した付加価値産業としての取り組みが得意ではありませんでしたが、最近になって、豊かな自然、広大な農用地など北海道ならではの素晴らしい景観を活用した観光作りが取り組まれる様になってきたほか、農産物を素材供給型から加工品の開発に転換する取り組みも行われています。

私達は、北海道農業・産業により多くの付加価値を生み出す取り組みとして、十勝オリジナルのアウトドアブランドとして鹿革を使った「COMUNI」を開発致しました。素材にはいわゆる石油製品を使用せず、シカ革を活用して養鹿ビジネスの可能性を示すなどのテーマを持ち、さらに購入金額の5%は森林を守るNPOの活動をサポートすることに使用されます。リュックを購入していただいた方は、シリアル番号をたどってインターネット上で自分が支援している森の成長を見ることができるようになります。